

気仙沼市・中学生代表者会議に参加しました(2018/08/21)

テーマ：防災教育，気仙沼市

場所：気仙沼市中央公民館（宮城県気仙沼市）

8月21日(火)，気仙沼市中央公民館を会場として、「第49回中学生代表者会議(中学生ESDサミット)」が開催されました(主催：気仙沼市教育委員会と気仙沼市学校長会同教育委員会)。気仙沼市では，毎年夏休み中に，市内中学校の代表者が集まる会議(サミット)を開催され，約80名の市内中学生や教諭が参加しました。ESDとは，Education for Sustainable Developmentの略で，「持続可能な開発のための教育」を意味します。持続可能な社会づくりの担い手を育む教育として環境，経済，社会，文化の各側面での総合的な学習のことであり，気仙沼市では古くからこのESD教育に力を入れています。今回は，各校生徒いりまじっての分科会(ワークショップ)のテーマが防災関係であることから，当研究所の佐藤翔輔准教授(情報管理・社会対応研究部門)が講師として招かれました。

会議の前半は，「全国いじめ問題子どもサミット」，「長崎ピースフォーラム」に参加した市内中学校の生徒さんからの参加報告と，ESD教育における実践例が生徒から紹介されたのちに，佐藤翔輔准教授は「3.11の経験から見えてきた津波から生き抜く知恵」という演題で講演を行いました。

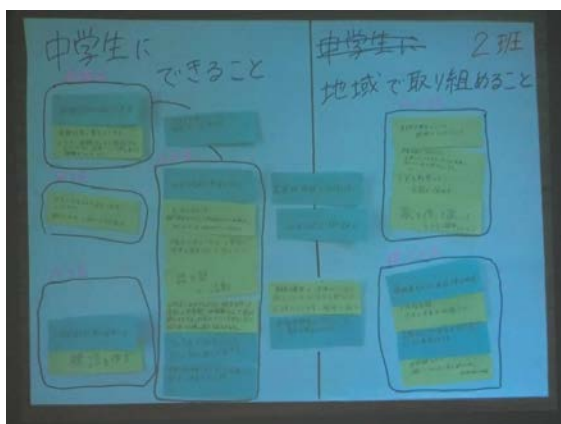
会議後半の分科会では「津波死ゼロを実現するには」という題目で，アイデアをまとめて発表するワークショップが実施されました。気仙沼市では，震災復興計画の第1目標として「津波死ゼロのまちづくり」を掲げられていることから，同テーマで実施されました。初対面のメンバーで構成されたチームにもかかわらず，全12チームとも具体的でバラエティに富んだアイデアを発表していました。特に何人かの生徒さんが「私達は震災を語り継ぐことのできる最後の世代」と口にしていたことが印象に残っています。また，各生徒さんの報告や佐藤翔輔准教授の講演では，多くの質疑応答がなされました。気仙沼市全体のレベルの高さが垣間見れました。



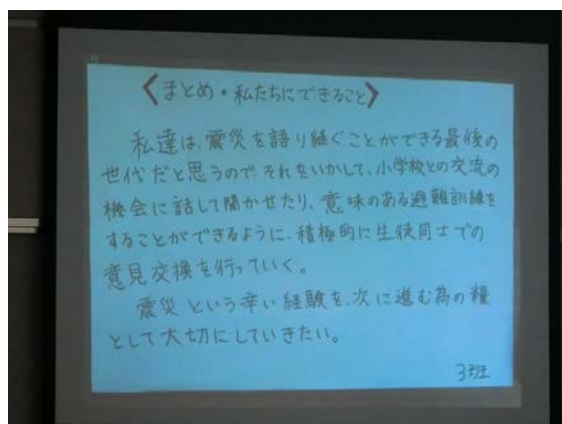
発表の様子



分科会の様子



発表の例(その1)



発表の例(その2)